

新宮山彦ぐるーぷが受賞報告会

40年の奉仕活動に社会貢献者表彰

山岳修験の大峯阿蘇道の整備保全をボランティアで行っている「新宮山彦ぐるーぷ」（川島功世話人代表）が11月28日、第47回社会貢献者表彰を受賞した。式典出席の報告会が10日、新宮市の阿須賀会館であった。

団体発足当時の代表・玉岡憲明さんの労をねぎらった。会員の高齢化が進む中、活動については近畿圏内へ広く協力を呼び掛けており、この日も東大阪市、堺市からの出席があった。新宮山彦ぐるーぷは、新宮市で昭和49年に結成された自然保護団体。明治維新後の神仏分離・修験道廃止令により、放置され荒廃していた南阿蘇道を刈り開き、路面を再生。休憩や避難所となる山小屋の新築や改築、整備を行っている。

表彰式典は東京都内の帝国ホテルで行われた。この表彰は、功績が広く知られていない社会貢献者の人たちをたたえる制度。分野は緊急時の人命救助、社会福祉の増進や青少年の育成などへの功労、国際協力、海山、川の環境保全と安全保持、子ども読書推進など多岐にわたる。第47回の受賞は51件。昭和46年に設立された社会貢献支援財団が表彰するもので、会長は内閣総理大臣夫人の安倍昭恵さん。

玉岡さんが書き続けてきた記録をもとに、「新宮山彦ぐるーぷ」が創立40年の活動の歩み」をこのほど発刊。記録誌によると、活動回数は1851回、延べ約2万1900人。ほぼ毎週、南阿蘇道と山小屋の点検、清掃、周辺の植生保護にも取り組んでいる。

報告会では川島代表があいさつ、物故者へ黙とうがさげられた。川島さんはこれまでの活動と支援者への感謝、奉仕精神の大切さを述べ、

同グループを支援しようと新宮信用金庫（浦木睦雄理事長）は「新宮しんきん世界遺産産心援募金」、新宮市神倉の株式会社カマハラテック（谷公雄代表取締役）は険しい山中での作業用モノレールを寄贈した。

（泉 真子）

熊野新報
12月6日



報告会に出席した52人の会員=10日、阿須賀会館



表彰式典で安倍昭恵さん(右から2人目)と川島功代表(右端)ら